



まい 埋やちよ

No. 8

千葉県八千代市
埋蔵文化財通信
2000. 5. 31
(平成12年)

平成11年度をふりかえって

平成11年度の埋蔵文化財事業について振り返ってみると、全体的な傾向としては発掘調査が比較的少なく、その分整理作業が多くなったことが挙げられると思います。以下、例年のように各項目ごとに簡単に振り返ってみましょう。

〔発掘調査〕

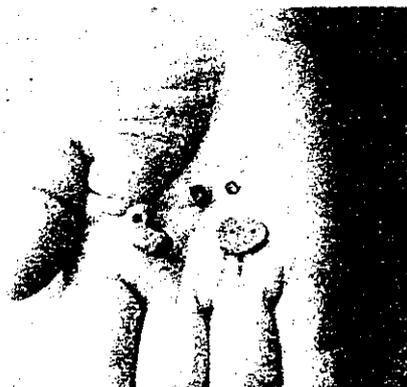
縄文時代の遺跡として吉橋(よしはし)地区の西内野(にしうちの)遺跡を調査し、縄文時代の遺構や遺物を検出しました。調査例の少ない吉橋地区において貴重な資料を得ることができました。また、毎年数地点で調査が行われている萱田(かた)町の川崎山(かわさきやま)遺跡では、縄文時代の狩猟用の落とし穴3基を調査しました。

川崎山遺跡の別の地点では弥生時代後期の住居跡3軒、古墳時代中期の住居跡3軒を調査しました。特に、古墳時代中期の住居跡では、石製模造品(せきせいもぞうひん=祭祀などに使うもので、装飾品や武器を模して作ったミニチュア品)の破片や原石が多量に出土したので、その製作所であったことがわかりました。川崎山遺跡では多くの地点が調査され、縄文時代の落とし穴の分布状況と、弥生時代から平安時代にかけて集落が展開する様子が明らかになってきました。

古墳時代の調査で、昨年新聞紙上にも

掲載されたものとして、平戸(ひらと)地区の平戸台2号墳の箱式石棺(はしきょうかん=板石を組み合わせて作ったひつぎ)の調査があります。調査の結果、石棺の中から人骨約8体分、副葬品として、直刀2振、勾玉(まがたま)5個、ガラス玉約200点などが出土し、古墳時代の平戸地区における勢力関係を知る手掛かりとなりました。

その他、確認調査では神久保(いものくぼ)地区の妙正神(みょうしょうじん)遺跡で、中近世の塚4基、弥生時代後期の住居跡1軒、方形周溝墓2基、古墳時代の住居跡1軒等を検出し、当該地区での遺跡のあり方を初めて具体的に知ることができました。八千代台南の高津新田遺跡では江戸時代の幕府直轄の牧場の一部である、野馬土手(のまどて)と野馬堀(のまほり)の一部を検出することができました。



川崎山遺跡出土の
石製模造品

(次ページへ続く)

〔整理事業〕

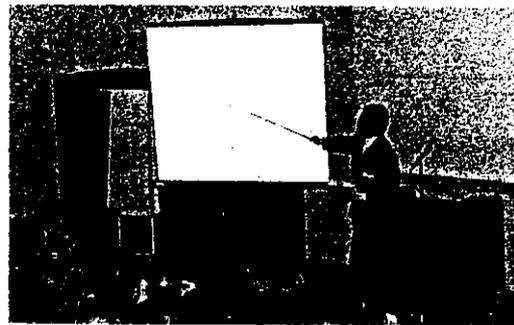
整理事業は報告書の刊行を目指す作業です。前述したとおり今までになく多くの整理に着手しました。縄文時代の遺跡としては、大和田新田の長兵衛野南(ちやべいのみなみ)遺跡、吉橋の西内野遺跡、内野南遺跡、弥生時代の遺跡としては、萱田町の上ノ山遺跡、古墳時代から平安時代の遺跡としては、八千代台北の内込(うちこめ)遺跡、平安時代の遺跡としては、萱田の池の台遺跡、川崎山遺跡です。

〔啓発事業〕

平成11年度の啓発事業は、平戸台2号墳を中心に各種の事業を行いました。まずは、9月21日に平戸の地元の方々を対象に現地説明会を行いました。調査工程等の関係から平日の開催となり、途中雨にも見舞われましたが、20名の方々に来ていただきました。続いて10月1日～10月31日の1ヵ月間、八千代市歴史民俗資

料館(現 郷土博物館)にて平戸台2号墳の速報展を行い、多くの方々に出土した副葬品等を見て頂きました。

さらに1月30日に行われました千葉県北西部地区の文化財発表会に参加し、平戸台2号墳の調査成果をスライドを使って発表しました。八千代市のみならず多くの近隣市町の方々に聞いていただくことができました。この発表会は八千代市を含む千葉県北西部地区の13市町の文化財行政担当者が開催したもので、今回が初めての試みでした。当日は500名を超える来場者があり、大盛況の中、発表会を終えることができました。



北西部文化財発表会のようす

(宮澤 久史)

墨書 の 円

今年は新 500円硬貨と2000円札の発行が予定されていますね。そこでこの墨書をどうぞ。

田 田

これらは、萱田の池の台遺跡d地点の平安時代住居跡から出土した、1個の土師器(はぎ)の坏(つぎ)に書かれています。最初は「田」かと思っていましたが、山武郡市文化財センターの大野康男さんが

八千代は墨書のまじだから...

「円」だよ、と教えてくださいました。同じような文字は、萱田の白幡前(しらばた)遺跡の平安時代初期(西暦800年代)の住居跡からも多く出土しています。

田 田 円 圓

白幡前遺跡と池の台遺跡は隣接して同じ台地上に展開しています。このような墨書土器の存在からも、両遺跡は一体の集落跡と考えられます。(常松 成人)

本格的な米作りの時代

前回、沖塚(おきづか)遺跡で出土した市内で最古の弥生土器を紹介しましたが、当時はまだ本格的な稲作農耕社会(いなさくのいりやかい)とは言いがたい状況でした。それでは本格的な稲作農耕社会と判断するにはどのような資料が必要となるのでしょうか。

まず、稲作農耕社会というからには、水田が必要です。次に水田耕作を行うための木製農具(もくせいゆうぐ), 鋤(すき)・鍬(くわ = 鋤・鍬とも土を掘り起こす農具)・田下駄(あした = 水田作業の時のはきもの)などがあるか、さらに木製農具を作る道具、つまり、木を切り倒すための斧や加工する道具の有無です。弥生時代は大陸系磨製石斧(たいりくせいまいせききょ)という中国や朝鮮半島の影響を受けた磨かれた石器が使用されます。最後に、特徴的な集落の存在です。弥生時代の集落とって思い浮かべるのは何でしょうか?そうです、佐賀県の吉野ヶ里(よしののち)遺跡に代表される、集落の周りを深い溝で囲った環濠集落(かたじょうらく)です。このような証拠がそろって本格的な稲作農耕社会と言えるのです。

このような特徴をもった弥生文化は、西日本で発生し、独自の弥生文化の道を歩んでいた東日本に拡大し、やがて中期後半(約2000年前)に八千代市にも及んできたのです。その遺跡とは、八千代市で初めて発見された環濠集落、田原窪(たはらくぼ)遺跡です。田原窪遺跡の広さは約8,000㎡と、弥生時代の環濠集落としては極めて小型の部類に入ります。水田及

び木製農具は発見されていませんが、大陸系磨製石斧が出土しており、それを利用して木を伐採し農具を作って水田で稲を栽培していたと考えられます。現在でも八千代市では新川流域を中心に水田が広がり、秋の収穫期には黄金色の稲穂が広がる光景を目にすることができますが、この時期に初めてこのような景観が八千代市に出現したと言えるでしょう。



田原窪遺跡出土の大陸系石器

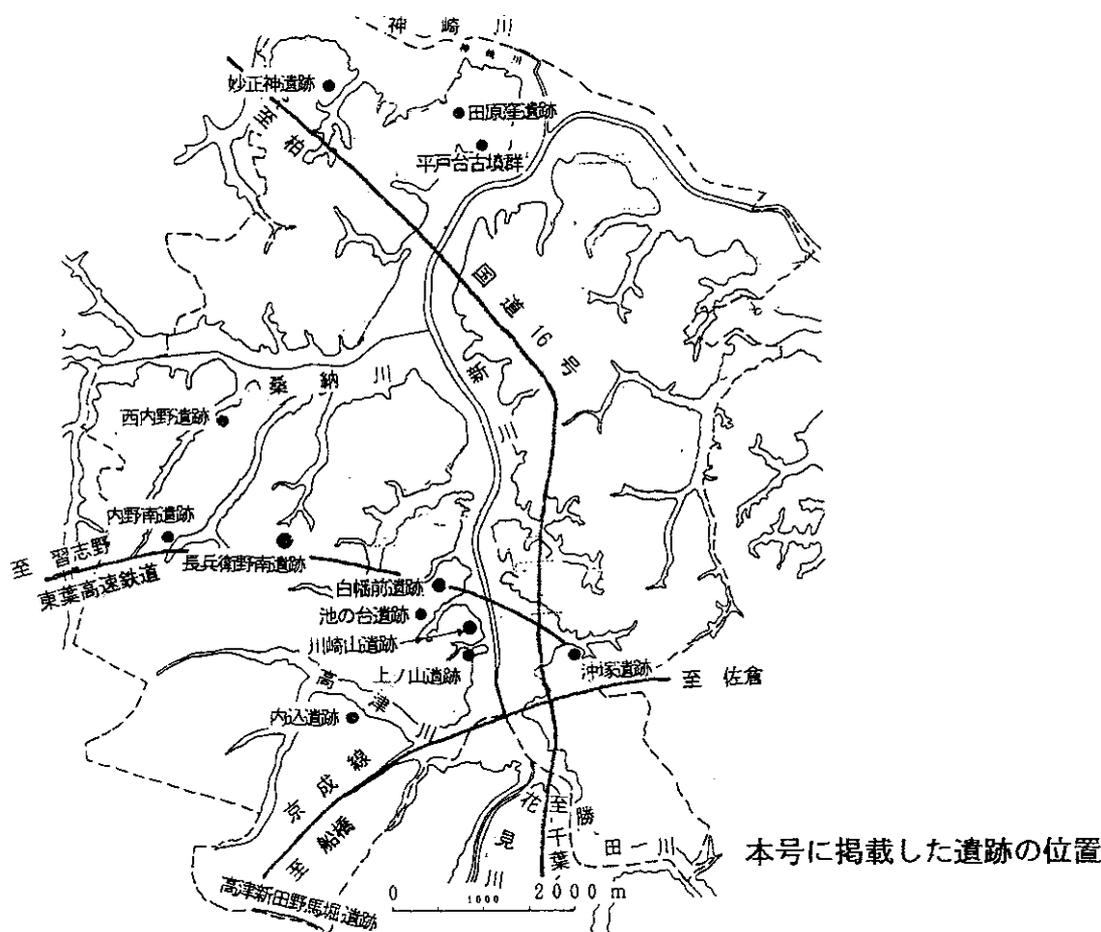
田原窪遺跡から出土した弥生土器は、東海地方の影響を強く受けています。この土器の分布によると東海地方から相模湾沿岸、三浦半島を経て、東京湾沿岸の現在の千葉・市原市周辺から印旛沼沿岸周辺に広がっていったものと考えられています。西から東へと移動してきた人々と文化は長い時間と道のりを経て、ようやく八千代市にたどりつきました。そして、本格的な稲作農耕社会を展開していたのです。(深谷 昇)

遺物紹介 内込遺跡の土製勾玉

内込遺跡は、古墳時代後期の集落跡を中心とする遺跡です。この時代の住居跡からは、土製の玉類がしばしば出土しますが、本遺跡からも勾玉や丸玉が出土しています。古代の人々は、玉には不思議な力があると考えていたようです。この素朴な勾玉にもそんな思いが込められていたのかもしれませんが。



(常松 成人)



編集後記

年度の始めから、遺跡調査会東部事務所での本整理事業の開始、高津新田野馬堀遺跡の本調査、北裏畑遺跡と雷遺跡の確認調査など盛りだくさんです。昨年度着手した本整理の報告書刊行も数冊予定されています。

埋(まい)やちよ No.8

—千葉県八千代市埋蔵文化財通信—
平成12年5月31日発行

編集・発行 八千代市教育委員会 生涯学習部
生涯学習課 文化財保護班
八千代市大和田138-2
☎276-0045 ☎047(483)1151 (代表)